

# 令和3年度事業計画

公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

## 1 基本方針

令和3年度は、滋賀県から受託する指定管理の初年度となることから、滋賀県文化振興基本方針（第3次）の基本目標である「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため「中期経営計画」を改定し、財団統合による強みや特徴を生かしながら、効率的・効果的に事業を展開する。

一方で、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、劇場は公演の中止や販売座席数の制限によって厳しい運営を強いられ、アーティストをはじめ文化芸術に携わる者は出演等の機会を失うなど、文化芸術は大きな影響を受けている。改めて文化芸術の存在意義やあり方が問われる中、文化芸術の灯を絶やさず、将来に継承する術を模索していく大きな転換期ととらえ、劇場運営においては引き続き感染拡大防止対策に万全を期すとともに、滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する財団として、県が行う文化活動者・文化団体等への活動支援や県内ホールの利用促進の事業にも積極的に参画する。

## 2 事業計画

### (1) 法人本部

県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供する。

また、県民の創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供等を通じて、誰もが文化芸術に親しめる環境を整備するとともに、地域で活動する若手アーティスト育成事業、滋賀の魅力を発信する事業等を展開し、文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀の実現を目指す。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う活動の自粛等により活動機会を失った文化活動者・文化団体等の活動継続・再開のための支援事業を行う。

#### ア 自主事業

県域を対象に、県内文化ホール等との情報共有や職員の能力向上を図り、協働連携しながら、本県出身のアーティストを発掘・育成する事業等を展開する。

県内文化ホールとのネットワークの構築や活性化を目指す「滋賀県アートコラボレーション事業」や文化団体等と協働して地域のアート活動を支え、地域の活性化を目指す「アート活動支援事業」、文化・経済フォーラム滋賀との共催で「びわ湖・アーティスト・みんぐる」を実施する。

#### イ 受託事業

滋賀県芸術文化祭開催事業、湖国文化情報「れいかる」や総合文化誌「湖国と文化」編集発行等の県内文化情報提供事業、新型コロナウイルス感染症対策に係る支援事業、障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業を受託する。

#### ウ 独自事業

文化・経済フォーラム滋賀および「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会の事務局を担う。

#### エ 広報営業活動

財団全体を一体ととらえた広報活動ならびにチケット発売や企業からの支援獲得等の営業活動を行う。

## (2) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

県民が舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに、舞台芸術の振興および普及を図り、県民の文化の向上に資するという滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの設置目的に則り、音楽、歌劇、演劇、舞踊、伝統芸能等の舞台芸術公演および鑑賞教室や研修等、舞台芸術普及のための事業を企画・実施するとともにホール、練習室等の貸館業務および施設の管理運営等を行う。

また、ウィズコロナの時代の中で、自主事業の新たなあり方についての検討を引き続き行うとともに、令和2年3月のプロデュースオペラ「神々の黄昏」の配信以降実施してきた有料・無料の配信や、様々な理由でホールに音楽を聴きに来られない方に向けて、アウトリーチ事業の充実にも努める。

### ア 自主事業

大ホールにおいて、びわ湖ホールプロデュースオペラ「パルジファル」や、沼尻竜典オペラセレクション「カルメン」をはじめとしたオペラやバレエ、オーケストラなど12事業20公演を、中ホールにおいて、オペラへの招待「つばめ」のほか、演劇、狂言などの6事業10公演を、小ホールにおいて、室内楽、専属声楽アンサンブル定期公演など6事業10公演を実施する。

また、普及事業として、舞台芸術の普及を図るため、オペラ入門講座、公演に関連したワークショップやプレトークなどを実施するとともに、次世代を担う青少年が良質な舞台芸術に触れる機会を提供する「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）を引き続き実施する。

併せて、誰もが気軽に音楽を楽しむ音楽祭「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」や、地域と連携して取り組む「びわ湖大津 秋の音楽祭」などにより、賑わいづくりを進める。

さらに、びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの招待」などのソリストおよび合唱を担うとともに、定期公演や「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）、「学校巡回公演」、「ふれあい音楽教室」などの各種事業のほか、依頼公演への出演を行う。また、昨年度に引き続き文化庁の委託を受け、国内各地の小学校を巡回して演奏会を行う。

### イ 広報営業活動

びわ湖ホールからの情報発信とチケットの販売促進を図るため、パブリシティ活動、情報誌の発行、新聞5紙への寄稿のほか、新聞・雑誌・電波等による広告、インターネットなどによる幅広い広報活動を行うとともに、協賛支援の確保や貸館についての営業活動を展開する。

また、インターネットによるチケット販売をはじめ、これまで蓄積した顧客リストの有効活用や組織販売にも力を入れながら、チケットの効果的な販売活動を行い、顧客の拡大に努める。

併せて、顧客の拡大・定着を図り、チケット販売等を促進するため、引き続き定期的な情報提供や友の会会員向けチケット料金の設定などにより、友の会会員（一般会員・サポート会員・特別会員）の拡大に努める。

さらに、人のネットワークによる観客創造を目的として、劇場サポーターを対象に研修を行うとともに、青少年の舞台芸術への関心を高めるため、引き続きシアターメイツ会員を募集し、一部公演のチケットの割引販売、立ち稽古等の見学会を実施する。また、多くの人びわ湖ホールへの親しみを持つことを目的に館内見学ツアー（まるっとステージツアー）を実施するほか、舞台芸術情報サロンの運営等を行う。

## (3) 滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特性を生かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興に努めるとともに、ホール、会議室等の貸館業務、SOHO施設の提供および施設の管理運営等を行う。

### ア 自主事業

引き続き文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の採択を受けた特設舞台「長栄座」での邦楽・邦舞

の自主制作公演、邦楽を中心とした実演家の養成や古典芸能キッズワークショップを行うとともに、子どもたちがコミュニケーションを築きながら取り組む「次世代育成ユースシアター事業」や、小中学校および特別支援学校へアーティストを派遣する「和のじかん」および「アートのじかん」、イベントホールの特徴を生かしたマーチングバンドの祭典「フィールドアート2022」などを開催するほか、舞台芸術公演を映像配信できる環境整備を行う。

また、産業分野との連携により起業を目指す人たちの情報交換会「ビジネスカフェ in 文化産業交流会館」や「長栄座」事業の開催に合わせて「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

#### イ 広報営業活動

ホームページおよびSNSによる発信、マスメディアへのプレスリリースなどを行うほか、ダイレクトメールやメールマガジンなどの情報配信による広報活動を実施する。また、インターネットによるチケット販売をはじめ、連続公演の割引制度の導入などサービスの向上に取り組む。

# 収 支 予 算 書

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	90	476	△ 386	
受取会費	25,000	25,000	-	
利用料金収益	165,674	230,000	△ 64,326	
事業収益	250,921	371,687	△ 120,766	
受取補助金等	1,799,625	1,769,191	30,434	
受取寄付金	45,745	44,413	1,332	
雑収益	7,086	144,680	△ 137,594	
引当金取崩額	1,456	-	1,456	
経常収益計	2,295,597	2,585,447	△ 289,850	
(2) 経常費用				
事業費	2,336,946	2,614,230	△ 277,284	
管理費	13,215	13,404	△ 189	
経常費用計	2,350,161	2,627,634	△ 277,473	
(うち人件費)	571,266	595,426	△ 24,160	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 54,564	△ 42,187	△ 12,377	
評価損益等計	-	-	-	
当期経常増減額	△ 54,564	△ 42,187	△ 12,377	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 54,564	△ 42,187	△ 12,377	
法人税、住民税及び事業税	124	124	-	
当期一般正味財産増減額	△ 54,688	△ 42,311	△ 12,377	
一般正味財産期首残高	343,953	334,448	9,505	
一般正味財産期末残高	289,265	292,137	△ 2,872	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取寄付金	13,035	12,300	735	
一般正味財産への振替額	△ 45,745	△ 44,413	△ 1,332	
当期指定正味財産増減額	△ 32,710	△ 32,113	△ 597	
指定正味財産期首残高	195,128	175,465	19,663	
指定正味財産期末残高	162,418	143,352	19,066	
<b>III 正味財産期末残高</b>	451,683	435,489	16,194	

# 収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	45	-	45	-	90
受取会費	12,500	-	12,500	-	25,000
利用料金収益	79,555	86,119	-	-	165,674
事業収益	250,921	-	-	-	250,921
受取補助金等	1,557,080	242,545	-	-	1,799,625
受取寄付金	45,745	-	-	-	45,745
雑収益	6,440	634	12	-	7,086
引当金取崩額	3,249	△ 1,829	36	-	1,456
経常収益計	1,955,535	327,469	12,593	-	2,295,597
(2) 経常費用					
事業費	2,109,045	227,901	-	-	2,336,946
管理費	-	-	13,215	-	13,215
経常費用計	2,109,045	227,901	13,215	-	2,350,161
(うち人件費)	496,912	70,882	3,472	-	571,266
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 153,510	99,568	△ 622	-	△ 54,564
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 153,510	99,568	△ 622	-	△ 54,564
他会計振替額	100,108	△ 101,397	1,289	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	△ 53,402	△ 1,829	667	-	△ 54,564
法人税、住民税及び事業税	-	124	-	-	124
当期一般正味財産増減額	△ 53,402	△ 1,953	667	-	△ 54,688
一般正味財産期首残高	254,910	43,792	45,251	-	343,953
一般正味財産期末残高	201,508	41,839	45,918	-	289,265
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
受取寄付金	13,035	-	-	-	13,035
一般正味財産への振替額	△ 45,745	-	-	-	△ 45,745
当期指定正味財産増減額	△ 32,710	-	-	-	△ 32,710
指定正味財産期首残高	132,176	1,652	61,300	-	195,128
指定正味財産期末残高	99,466	1,652	61,300	-	162,418
<b>III 正味財産期末残高</b>	300,974	43,491	107,218	-	451,683

# 資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

## 1 資金調達の見込みについて

なし

## 2 設備投資の見込みについて

なし

# 令和2年度事業報告

## 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

芸術文化の創造と振興を図ってきた「公益財団法人びわ湖ホール」と、多様な文化事業を推進してきた「公益財団法人滋賀県文化振興事業団」の文化芸術部門とを統合した「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」の4年目として、県域全体の文化振興施策を総合的に推進するため、これまで培ってきた2財団の強みを生かした効率的・効果的な事業展開に努めるとともに、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと滋賀県立文化産業交流会館の適正な施設管理に努めた。

### 1 法人本部

#### (1) 自主事業等

県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを図り、協働連携のもと、県民が身近に文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、次代を担うアーティストの発掘と育成に努めた。また、びわ湖ホールのアウトリーチ事業を地域創造部が担うなど、びわ湖ホールを含む財団の事業を県域全体に、総合的に推進する体制の強化に努めた。併せて、県から「未来へつなぐしが文化活動応援事業」や「文化芸術公演支援事業」の補助金交付事務を受託し、新型コロナウイルス感染症により活動に影響を受けたアーティスト等への支援を行った。

区 分		事業数	公演数	入場者数（人）
自 主 事 業	人 材 養 成	4	11	3,492
	協 働 連 携	10	14	2,843
	情 報 提 供	2	—	—
	計	16	25	6,335

### 2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

#### (1) 自主事業等

##### ア 自主事業

びわ湖ホール独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指して、オペラをはじめ、オーケストラ、室内楽、ダンス、演劇、伝統芸能など幅広い多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催した。

また、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年6月施行）」に謳われた劇場等や演奏団体の相互連携、地域における実演芸術の振興、人材の養成・確保、学校教育との連携などに積極的に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を受けて、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」（27公演）をはじめ、13事業51公演を中止としたが、7月からは小ホールの公演を大ホールに移すなど、座席の収容率を50%に設定して公演を再開し、大晦日のジルヴェスター・コンサートからは収容率を100%に戻して公演を行った。

4月11日から5月31日までの休館中は、職員提案による様々な新規事業を展開し、専属声楽アンサンブルによる小学校の校歌音源プロジェクトやロビーコンサートの無料配信を行ったほか、「おうちで楽しむ！にゃんばら先生プロジェクト」、医療従事者に感謝の意を表する「ブルーライトアップ」、県民に無料で大ホールを利用いただく「でっかい練習室」などのプロジェクトを実施した。

オペラでは、6月の「ナブッコ」、7月の「竹取物語」、11月の「セビリアの理髪師」は中止となったが、ソーシャルディスタンスに最大限配慮し、1月に「オペラへの招待」シリーズとして、モーツァルト作曲「魔笛」を通常の舞台公演で、前年度に引き続き4日間4公演を行った。3月にはプロデュースオペラでワグナー作曲「ローエングリン」をセミステージ形式でオール日本人キャストにより新制作・上演した。

併せて、広く舞台芸術の普及を図るため、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる活動を展開した。県や教育委員会と連携した「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）、「学校巡回公演」は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて中止となったが、「ふれあい音楽教室」を県内の小中学校12校で実施し、次代を担う青少年が音楽や舞台芸術に触れる機会の提供に努めた。また、イオンモール草津からの依頼によるロビーコンサートの実施など、積極的に公演の依頼に応じた。

#### 【自主事業】

区 分		事業数	公演数	入場者数(人)
自 主 公 演	大ホール	15	18	12,103
	中ホール	7	13	4,607
	小ホール	1	5	900
	計	23	36	17,610
普及事業		10	41	2,912
共催等		11	12	4,148
計		44	89	24,670

#### 【配信事業】

区 分	事業数	公演数	視聴者数(人)
配信事業	5	7	855

#### イ 受託事業

文化庁委託事業である「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」を中部・関東地方の小中学校8校において計16公演を実施した。

また、県委託事業として新型コロナウイルス感染症の影響で失われた音楽鑑賞の機会を創出するため、県内全域で「みんなで音楽会へ出かけよう！」を開催するとともに、びわ湖ホール公演は無料でライブ配信を行ったほか、アーカイブ配信も行った。

#### ウ 専属声楽アンサンブル運営

年度当初はコロナ禍で活動ができない期間が生じたが、感染症対策を徹底しつつ、「沼尻竜典 日本合唱音楽セレクション」や、声楽アンサンブル桂冠指揮者の本山秀毅氏とともに特別公演としてJ. S. バッハのマタイ受難曲公演に取り組んだほか、びわ湖ホールの創造活動の核として、「オペラへの招待」や「プロデュ



ースオペラ」のソリスト、合唱を担うとともに、定期公演をはじめ、各種自主事業に出演した。

依頼公演は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により少なくなったものの、札幌文化芸術劇場でのニューイヤーズ・コンサートに出演したほか、各地の公演依頼に積極的に応じた。

なお、びわ湖ホール声楽アンサンブルに過去在籍していたメンバー（ソロ登録メンバー）によるユニット「びわ湖ホール四大テノール」は、令和2年4月に急逝した同メンバーの二塚直樹氏の追悼コンサートとして、日本を代表するテノール歌手福井敬氏と共演し、クラシック音楽の普及に努めた。

## エ ネットワークの形成

県公立文化施設協議会の会長館として、館長会議を開催したほか、びわ湖舞台芸術スタッフセミナーでアートマネジメント研修などを実施し、県内公立文化施設のネットワーク形成や職員の能力向上に努めた。

## (2) 広報営業活動

### ア 広報営業活動

びわ湖ホールからの情報発信とチケットの販売促進を図るため、公演チケット情報「Stage」や舞台芸術情報誌「湖響」の発行をはじめ、パブリシティ活動、ホームページや新聞5紙への寄稿、新聞・雑誌・電波等による情報提供や広告など幅広い広報活動を行うとともに、協賛の募集やスポンサーの確保、施設利用についての営業活動を行った。

### イ チケット販売

組織販売に努めるとともに、大型公演にはSS席を適切に配置して特別感を醸成するなど、チケットの効果的な販売活動を行った。さらに、プロデュースオペラ「ローエン格林」では、SS席を寄附金付きのチケットとして取り扱った。また、若年層向けに、ほぼすべての公演に青少年料金（25歳未満）を設定し、U30席（30歳以下料金）・U24席（24歳以下料金）、シアターメイツ対象公演を設けるなど顧客の拡大に努めた。

また、インターネット、スマートフォンでのチケットの予約購入、クレジット決済、コンビニエンスストアでのチケット受取など利便性を高め、チケットの販売促進に努めた。

### ウ 貸館利用促進

顧客法人等への営業活動により、新規利用者の開拓や既利用者の継続的利用など施設の利用促進に努めた。

### エ オフィシャルスポンサー

特定の自主事業に対する協賛、あるいは年間を通じた自主事業全体への協賛をいただく「びわ湖ホールオフィシャルスポンサー」に応募いただくよう働きかけを行い、3者の年間スポンサーを獲得し、事業運営に支援いただくとともに、各スポンサー企業の広告をびわ湖ホールウェブサイトや情報誌に掲載するなど、劇場を広告・宣伝の媒体として活用いただいた。

また、プロデュースオペラ「ローエン格林」に対する「公演スポンサー」として、1者よりご支援いただいた。

(ア) 年間スポンサー 3者（令和3年3月末現在）

(イ) 公演スポンサー 1者（プロデュースオペラ「ローエン格林」）

### オ 友の会運営

顧客の拡大・定着を図り、チケット販売等を促進するため、友の会一般会員、特別会員およびサポート会員を募集し、情報の提供とチケットの優先販売を行った。特に、サポート会員および特別会員については、パンフレットや資料を作成し、個別に営業を行うなど、会員募集に力を入れた。

会員数（令和3年3月末現在）

一般会員 2,849人（クレジット会員 1,153人、非クレジット会員 1,696人）

サポート会員 337者 357口

特別会員 128者 155口

#### カ 人と人のネットワークづくり

##### (ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的に、第1期から第25期までの劇場サポーター122人の研修を行い、サポーター活動の実践を通じ舞台芸術の普及に努めた。感染症拡大防止のため、予定していた多くの事業を中止・延期することとなったが、年度後半に実施した講座等では、通常以上に多くの参加があり、熱心な取組となった。

##### (イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高めるため、6歳以上18歳以下の青少年を対象にシアターメイツ会員を募集した。休校中の子どもたちが自宅で楽しめるよう、にゃんばら先生プロジェクトとして、ぬり絵等の作品募集・展示やジルヴェスター・コンサートのリハーサル見学会等を実施した。

##### (ウ) 舞台芸術情報サロン・館内見学ツアー等

誰もが気軽に舞台芸術に関する情報に触れられるよう、舞台芸術情報サロンを運営し、各種サービスの提供を行うとともに絵はがきやクリアフォルダーなどのびわ湖ホールグッズや「神々の黄昏」ブルーレイディスクを販売した。

#### (3) 貸館事業

利用者の立場に立ったきめの細かい対応を徹底し、リピーターの確保を含め貸館利用の促進に努めた。

また、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う利用の自粛要請、4月～5月の臨時休館、その後の中止・延期希望については、丁寧に説明して理解と協力を求めた。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
大 ホ ー ル	20	12,884
中 ホ ー ル	21	4,802
小 ホ ー ル	54	4,426
計	95	22,112

#### (4) 管 理 運 営

指定管理者として、建物・設備の良好な維持管理に当たるとともに、効率的な管理を行い経費の節減を図った。また、各ホールのほかりハーサル室、練習室、研修室、駐車場等が有効かつ安全に利用されるよう努めた。

併せて、来場者から要望の多かったトイレの改修について、令和元年度の大・中ホールのトイレ改修に引き続き、小ホールや楽屋の和式トイレの洋式化・温水洗浄便座化等、快適性を確保する改修を行った。

なお、駐車場の令和2年度の総利用台数は、31,321台であった。

### 3 滋賀県立文化産業交流会館

#### (1) 自 主 事 業 等

##### ア 自主事業

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、令和2年4月11日より5月31日まで施設を休館とすることとなり、上半期における自主公演の多くを中止または延期したが、感染防止対策に万全を期しつつ事業を再開し、年度後半には当初の目的どおり、県北部の文化振興の拠点として施設や地域の特性を生かした特設舞台「芝

居小屋『長栄座』」での自主制作公演をはじめ、邦楽・邦舞を次世代へ継承する古典芸能事業、子どもや青少年によるミュージカル、滋賀にゆかりのある若手演奏家等による室内楽演奏会、県民との協働企画事業等を行った。また、会館初となるイベントホールでのプロの吹奏楽、クラシックバレエなど、感染対策を講じながら幅広い分野の舞台芸術公演等を行った。さらに、学校で児童・生徒が間近に生演奏に触れる「アートのじかん」を地域創造部と連携して取り組んだ。

区 分	事業数	公演数	入場者数(人)
公演制作	2	2	436
人材養成	3	2	1,689
普及啓発	7	41	3,510
協働連携	3	4	424
鑑 賞	3	5	2,353
産業振興	2	1	513
計	20	55	8,925

#### イ ネットワークの形成

県民から事業の企画を募る協働事業、滋賀にゆかりのある演奏家の主催事業への出演、起業家を対象にしたセミナーの開催、滋賀県内の伝統産業や特産品等の展示即売会を実施するなど多方面で人的なネットワーク形成に努めた。

#### (2) 広報営業活動

##### ア 広報営業活動

施設利用の拡大および公演チケットの販売促進のため、ホームページ、SNS等を活用した情報発信や、びわ湖ホールが発行する舞台芸術情報誌「湖響」内の「えいじゃに」コーナーへの文化産業交流会館情報の掲載をはじめ、マスメディアへのプレスリリース、新聞・情報誌・メディア等への広告掲載、ダイレクトメールや会員へのメールマガジンの配信など、広範囲にわたる広報活動を積極的に行った。

また、基金や協賛団体の確保のための営業活動を行った。

##### イ チケット販売

ニーズの高いイベントについては各プレイガイドで先行受付を行うなど販売促進に努めた。また、蓄積した顧客情報（アートフレンド・アンケート）を活用し、ダイレクトメールのほかパソコンやスマートフォンへチケット情報の案内をメール配信、適宜SNS広告を導入するなど、効果的なチケットの販売活動に努めた。チケット受取や決済の方法についても、コンビニエンスストアでの受取やクレジットカード決済などで利便性を高め、顧客の拡大に努めた。

インターネット購入登録者数（令和3年3月末現在） 4,977人

##### ウ メールマガジン「アートフレンド」運営

文化産業交流会館の新規顧客やチケット販売数の拡大を図るため、引き続きアートフレンド会員を募集し、定期的な会員向けの情報提供を行った。

アートフレンド会員数(令和3年3月末現在) 2,157人

#### (3) 貸 館 事 業

利用者の立場に立ったきめの細かい対応を徹底し、リピーターの確保を含め貸館利用の促進に努めた。

前年度終盤から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、利用件数および利用者数が大幅に減少した。新型コロナウイルス感染症拡大防止を行いながらの利用については、予約されていた全利用団体に丁寧に説明して理解と協力を求めると同時に、文化庁の補助金を活用して、感染対策に効果的な物品類を設置し、施設利用者の予防環境の向上を図った。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
イベントホール	75	10,807
小 劇 場	48	3,328
会議室・練習室	575	12,010
計	698	26,145

#### (4) 管 理 運 営

多様な方々が利用する公共施設として、適切な人材を配置し、文化利用および産業利用の両面においてフレキシブルに対応し、施設利用の促進に努めた。

なお、コロナ禍にあって感染対策の効果が直接的あるいは間接的に期待できるトイレ洋式化改修や空調設備更新、映像配信システム整備等を行った。

##### ア ホール等の管理運営

安全・安心な施設や設備の維持管理にあたるとともに、質の高いサービスの提供を行った。また、各ホールのほか練習室、会議室、駐車場等が有効かつ安全に利用されるよう努めた。

##### イ 来館者サービス

総合文化誌「湖国と文化」や収入印紙・滋賀県収入証紙・切手・はがきを販売した。なお、収入印紙、滋賀県収入証紙の販売事業については、公益目的事業に重点を置き、かつ、円滑な管理運営を行うために令和3年3月31日をもって廃止した。

# 正味財産増減計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	478,272	485,015	△ 6,743
受取会費	23,434,708	22,769,347	665,361
利用料金収益	113,041,488	155,148,796	△ 42,107,308
事業収益	99,570,552	213,666,660	△ 114,096,108
受取補助金等	1,739,513,497	1,593,073,732	146,439,765
受取寄付金	1,186,134	32,058,546	△ 30,872,412
雑収益	44,309,643	147,881,370	△ 103,571,727
経常収益計	2,021,534,294	2,165,083,466	△ 143,549,172
(2) 経常費用			
事業費用	1,933,034,729	2,199,467,122	△ 266,432,393
管理費用	9,817,169	10,469,830	△ 652,661
経常費用計	1,942,851,898	2,209,936,952	△ 267,085,054
(うち人件費)	563,297,648	557,815,564	5,482,084
評価損益等調整前当期経常増減額	78,682,396	△ 44,853,486	123,535,882
評価損益等計	-	-	-
当期経常増減額	78,682,396	△ 44,853,486	123,535,882
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
前期損益修正益	-	2,447,970	△ 2,447,970
経常外収益計	-	2,447,970	△ 2,447,970
(2) 経常外費用			
前期損益修正損	-	446,198	△ 446,198
経常外費用計	-	446,198	△ 446,198
当期経常外増減額	-	2,001,772	△ 2,001,772
税引前当期一般正味財産増減額	78,682,396	△ 42,851,714	121,534,110
法人税、住民税及び事業税	122,200	476,200	△ 354,000
当期一般正味財産増減額	78,560,196	△ 43,327,914	121,888,110
一般正味財産期首残高	336,229,953	379,557,867	△ 43,327,914
一般正味財産期末残高	414,790,149	336,229,953	78,560,196
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付金	11,944,802	22,566,243	△ 10,621,441
特定資産運用益	494	388	106
一般正味財産への振替額	△ 1,186,134	△ 32,058,546	30,872,412
当期指定正味財産増減額	10,759,162	△ 9,491,915	20,251,077
指定正味財産期首残高	187,385,821	196,877,736	△ 9,491,915
指定正味財産期末残高	198,144,983	187,385,821	10,759,162
<b>III 正味財産期末残高</b>	612,935,132	523,615,774	89,319,358

# 正味財産増減計算書内訳表

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	239,136	-	239,136	-	478,272
受取会費	11,717,354	-	11,717,354	-	23,434,708
利用料金収益	35,507,239	77,534,249	-	-	113,041,488
事業収益	99,570,552	-	-	-	99,570,552
受取補助金等	1,519,399,824	220,113,673	-	-	1,739,513,497
受取寄付金	1,186,134	-	-	-	1,186,134
雑収益	24,137,391	20,137,536	34,716	-	44,309,643
経常収益計	1,691,757,630	317,785,458	11,991,206	-	2,021,534,294
(2) 経常費用					
事業費	1,699,138,697	233,896,032	-	-	1,933,034,729
管理費	-	-	9,817,169	-	9,817,169
経常費用計	1,699,138,697	233,896,032	9,817,169	-	1,942,851,898
(うち人件費)	501,165,093	59,050,447	3,082,108	-	563,297,648
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,381,067	83,889,426	2,174,037	-	78,682,396
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 7,381,067	83,889,426	2,174,037	-	78,682,396
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	-	-	-	-	-
(2) 経常費用					
経常外費用計	-	-	-	-	-
当期経常外増減額	-	-	-	-	-
他会計振替額	81,178,566	△ 82,366,438	1,187,872	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	73,797,499	1,522,988	3,361,909	-	78,682,396
法人税、住民税及び事業税	-	122,200	-	-	122,200
当期一般正味財産増減額	73,797,499	1,400,788	3,361,909	-	78,560,196
一般正味財産期首残高	245,993,856	43,916,360	46,319,737	-	336,229,953
一般正味財産期末残高	319,791,355	45,317,148	49,681,646	-	414,790,149
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
受取寄付金	11,944,802	-	-	-	11,944,802
特定資産運用益	494	-	-	-	494
一般正味財産への振替額	△ 1,186,134	-	-	-	△ 1,186,134
当期指定正味財産増減額	10,759,162	-	-	-	10,759,162
指定正味財産期首残高	124,434,271	1,651,550	61,300,000	-	187,385,821
指定正味財産期末残高	135,193,433	1,651,550	61,300,000	-	198,144,983
<b>III 正味財産期末残高</b>	454,984,788	46,968,698	110,981,646	-	612,935,132

# 貸 借 対 照 表

令和 3 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	278,361,164	501,072,383	△ 222,711,219
未収金	305,268,701	214,164,693	91,104,008
前払金	414,497	470,604	△ 56,107
仮払金	12,064	—	12,064
刊行物	9,705,531	9,137,196	568,335
販売促進物	1,476,681	849,458	627,223
預り印紙・証紙	967,400	4,377,950	△ 3,410,550
流動資産合計	596,206,038	730,072,284	△ 133,866,246
2 固定資産			
基本財産			
基本財産預金	13,500	22,600,000	△ 22,586,500
投資有価証券	122,586,500	100,000,000	22,586,500
基本財産合計	122,600,000	122,600,000	—
特定資産			
退職給付引当資産	56,906,244	56,114,972	791,272
退職給付準備預金	13,737,248	13,737,248	—
事業推進積立金資産	42,473,062	42,471,662	1,400
運営調整積立資産	100,288,057	36,284,984	64,003,073
舞台芸術基金積立資産	51,338,675	39,888,785	11,449,890
夢キラリ文化基金預金	1,674,507	1,372,499	302,008
オリンピック・パラリンピック文化プログラム特別公演事業積立資産	—	11,000,000	△ 11,000,000
文化産業交流会館開館35周年記念事業積立資産	3,000,000	2,000,000	1,000,000
びわ湖ホール開館25周年記念事業積立資産	3,000,000	2,000,000	1,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念（びわ湖ホール）事業積立資産	30,000,000	—	30,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念（文化産業交流会館）事業積立資産	10,000,000	—	10,000,000
（仮）沼尻芸術監督退任特別事業積立資産	26,400,000	—	26,400,000
（仮）新芸術監督就任記念事業積立資産	17,600,000	—	17,600,000
什器備品	1	1	—
ソフトウェア	744,552	1,737,288	△ 992,736
特定資産合計	357,162,346	206,607,439	150,554,907
その他固定資産			
車両運搬具	209,453	628,983	△ 419,530
什器備品	2	2	—

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
その他固定資産合計	209,455	628,985	△ 419,530
固定資産合計	479,971,801	329,836,424	150,135,377
資 産 合 計	1,076,177,839	1,059,908,708	16,269,131
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	287,246,400	300,825,377	△ 13,578,977
前受金	39,379,825	75,760,885	△ 36,381,060
預り金	17,561,728	58,213,552	△ 40,651,824
未払法人税等	122,200	122,200	—
県使用料預り金	539,058	561,234	△ 22,176
未払消費税等	30,864,600	12,243,000	18,621,600
賞与引当金	30,622,652	32,451,714	△ 1,829,062
流動負債合計	406,336,463	480,177,962	△ 73,841,499
2 固定負債			
退職給付引当金	56,906,244	56,114,972	791,272
固定負債合計	56,906,244	56,114,972	791,272
負債合計	463,242,707	536,292,934	△ 73,050,227
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	198,144,983	187,385,821	10,759,162
(うち基本財産への充当額)	(122,600,000)	(122,600,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(75,544,983)	(64,785,821)	(10,759,162)
2 一般正味財産	414,790,149	336,229,953	78,560,196
(うち特定資産への充当額)	(224,711,119)	(85,706,646)	(139,004,473)
正味財産合計	612,935,132	523,615,774	89,319,358
負債及び正味財産合計	1,076,177,839	1,059,908,708	16,269,131



# 貸借対照表内訳表

令和 3 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益目的 事業会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 資産の部</b>					
1 流動資産					
現金預金	160,555,373	67,010,598	50,795,193	-	278,361,164
未収金	271,168,171	34,068,752	31,778	-	305,268,701
前払金	363,924	48,916	1,657	-	414,497
仮払金	12,064	-	-	-	12,064
刊行物	9,705,531	-	-	-	9,705,531
販売促進物	1,200,766	275,915	-	-	1,476,681
預り印紙・証紙	-	967,400	-	-	967,400
流動資産合計	443,005,829	102,371,581	50,828,628	-	596,206,038
2 固定資産					
基本財産					
基本財産預金	6,750	-	6,750	-	13,500
投資有価証券	61,293,250	-	61,293,250	-	122,586,500
基本財産合計	61,300,000	-	61,300,000	-	122,600,000
特定資産					
退職給付引当資産	49,003,864	7,861,673	40,707	-	56,906,244
退職給付準備預金	11,828,948	1,894,000	14,300	-	13,737,248
事業推進積立金資産	42,473,062	-	-	-	42,473,062
運営調整積立資産	100,288,057	-	-	-	100,288,057
舞台芸術基金積立資産	51,338,675	-	-	-	51,338,675
夢キラリ文化基金預金	1,674,507	-	-	-	1,674,507
文化産業交流会館開館35周年記念事業積立資産	3,000,000	-	-	-	3,000,000
びわ湖ホール開館25周年記念事業積立資産	3,000,000	-	-	-	3,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念（びわ湖ホール）事業積立資産	30,000,000	-	-	-	30,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念（文化産業交流会館）事業積立資産	10,000,000	-	-	-	10,000,000
（仮）沼尻芸術監督退任特別事業積立資産	26,400,000	-	-	-	26,400,000
（仮）新芸術監督就任記念事業積立資産	17,600,000	-	-	-	17,600,000
什器備品	1	-	-	-	1
ソフトウェア	744,552	-	-	-	744,552
特定資産合計	347,351,666	9,755,673	55,007	-	357,162,346
その他固定資産					
車両運搬具	104,726	94,254	10,473	-	209,453
什器備品	1	-	1	-	2

科 目	公益目的 事業会計	収益目的 事業会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
その他固定資産合計	104,727	94,254	10,474	—	209,455
固定資産合計	408,756,393	9,849,927	61,365,481	—	479,971,801
資 産 合 計	851,762,222	112,221,508	112,194,109	—	1,076,177,839
<b>II 負債の部</b>					
1 流動負債					
未払金	250,627,039	36,505,955	113,406	—	287,246,400
前受金	36,217,642	3,162,183	—	—	39,379,825
預り金	14,335,196	2,959,853	266,679	—	17,561,728
未払法人税等	—	122,200	—	—	122,200
県使用料預り金	211,386	327,672	—	—	539,058
未払消費税等	19,775,721	10,436,592	652,287	—	30,864,600
賞与引当金	26,606,586	3,876,682	139,384	—	30,622,652
流動負債合計	347,773,570	57,391,137	1,171,756	—	406,336,463
2 固定負債					
退職給付引当金	49,003,864	7,861,673	40,707	—	56,906,244
固定負債合計	49,003,864	7,861,673	40,707	—	56,906,244
負債合計	396,777,434	65,252,810	1,212,463	—	463,242,707
<b>III 正味財産の部</b>					
1 指定正味財産					
指定正味財産合計	135,193,433	1,651,550	61,300,000	—	198,144,983
(うち基本資産への充当額)	(61,300,000)	(—)	(61,300,000)	—	(122,600,000)
(うち特定資産への充当額)	(73,893,433)	(1,651,550)	(—)	—	(75,544,983)
2 一般正味財産	319,791,355	45,317,148	49,681,646	—	414,790,149
(うち特定資産への充当額)	(224,454,369)	(242,450)	(14,300)	—	(224,711,119)
正味財産合計	454,984,788	46,968,698	110,981,646	—	612,935,132
負債及び正味財産合計	851,762,222	112,221,508	112,194,109	—	1,076,177,839